

## 第159回 汽水域懇談会

# 沿岸域から深海域における海洋プラスチック研究 ～マイクロプラスチックの挙動や分布実態把握、持続可能な 新規素材開発に向けて～

日時: 2022年 11月16日(水) 16:00-17:30 **参加希望者は以下へご連絡下さい。**  
場所: ハイブリッド開催 (15:30からzoomを開設) **kisui@soc.shiman-u.ac.jp**  
(センター2階のセミナー室とzoomを併用) **(11/14(月)正午締切)**

### 【講演概要】

プラスチック製の海洋ゴミの増加が世界の海域で問題となっています。プラスチックは自然に分解しづらく、劣化が進行して微細化したマイクロプラスチック (MPs ; 5mm以下) は、誤食により生物体内に取り込まれるなど、生態系への影響が懸念されています。世界的にも、「G20海洋プラスチックごみ対策実施枠組」など、その対策が進められています。

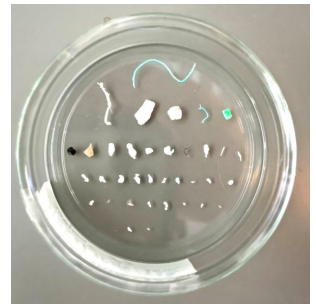
海岸はMPsの主な生成場と考えられており、海岸におけるプラスチックごみやMPsの動態を理解することは重要です。島根半島沿岸域では、対馬海流や季節風などの影響でプラスチックを含む多くの漂着ゴミが確認されており、島根半島沿岸域におけるMPsの分布や海洋ごみの分布に関する研究を進めています。

また、海洋に放出されたプラスチックごみは、深海域にも輸送、堆積していることが明らかとなっています。今回は、これらの沿岸から深海に至るMPsの挙動、分布実態の把握、生物への影響、持続可能な新規素材開発について、沿岸から深海までを俯瞰した発表を行います。

#### 1. 辻本 彰 島根大学・講師 (博士:理学)

##### 沿岸域におけるマイクロプラスチック問題

##### ～島根半島におけるマイクロプラスチックの分布を例に～



#### 2. 松葉 史紗子 国立環境研究所・特別研究員 (博士:農学)

##### 市民データの欠損値を統計手法で乗り越える: 島根県海岸ゴミの漂着要因解明を目指して

#### 3. 土屋 正史 海洋研究開発機構・グループリーダー代理 (博士:理学)

##### 沿岸で微細化したプラスチックはどこへ行く? 北西太平洋の深海海底谷・黒潮続流に沿ったマイクロプラスチックの分布と推定される輸送過程

#### 4. 野牧 秀隆 海洋研究開発機構・主任研究員 (博士:理学)

##### 深海における生分解性プラスチック分解実験: 深海の化学環境と微生物叢の影響

お問い合わせ: 島根大学 研究・学術情報本部 エスチュアリー研究センター  
齋藤 文紀 Tel 0852-32-6037 e-mail kisui@soc.shiman-u.ac.jp